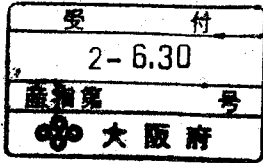


（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和2年6月30日

大阪府知事 殿



提出者

住所 大阪府泉佐野市葵町4丁目5-30

氏名 中井エンジニアリング株式会社
南部導管営業所
所長 大石 伸也

電話番号 072-461-4062

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	中井エンジニアリング株式会社 南部導管営業所
事業場の所在地	大阪府泉佐野市葵町4丁目5-30
計画期間	令和2年4月1日～令和3年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類	06 総合工事業						
②事業の規模	6億1000万円						
③従業員数	14人						
④産業廃棄物の一連の処理の工程	<table border="0"><tr><td>現場発生</td><td>産業廃棄物処理業</td><td>処理方法</td></tr><tr><td>アスコン破片</td><td>再生処理業者 処理場へ運搬</td><td>再生骨材として再資源</td></tr></table>	現場発生	産業廃棄物処理業	処理方法	アスコン破片	再生処理業者 処理場へ運搬	再生骨材として再資源
現場発生	産業廃棄物処理業	処理方法					
アスコン破片	再生処理業者 処理場へ運搬	再生骨材として再資源					

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)	産業廃棄物管理推進体制表					
	本社及び導管営業所					
	本社		本社		営業所	
	環境管理責任者		管理推進者		管理責任者	
	安全品質管理室長		安全品質管理室		導管部所長	
			現場		営業所	
			業務別担当者		業務別担当者	
			工務課長		管理課	
					情報管理	
					マニフェスト	
					管理システム	

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（平成31年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類（アスコン破片）	
	排出量	1955.96 t	t
	（これまでに実施した取組） ・非開削工法の推進 ・掘削幅・本復旧範囲の縮小		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類（アスコン破片）	
	排出量	1800 t	t
	（今後実施する予定の取組） 上記項目に加え、下記取組を実施予定 ・本復旧範囲の縮小 （幅員5m以上現場において全面復旧範囲の見直し）		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）	
	・再生利用しやすい様にアスファルト・コンクリート等と木くず等を分別	
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 現状維持	

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（平成31年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) なし		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（平成31年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組) なし			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組) なし			

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（平成31年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) なし		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（平成31年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	1955.96 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	1955.96 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者	t	t
	(これまでに実施した取組) ・発生する産業廃棄物の大半がアスファルト、コンクリート破片であることから、現状通り再生利用業者へ処分を委託する。 ・委託先処理業者には定期的に現地調査を実施し、契約通り適正な処理が行われているかを確認する。		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	1800 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	1800 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者 への処理委託量	t	t
(今後実施する予定の取組)			
<ul style="list-style-type: none">・発生する産業廃棄物の大半がアスファルト、コンクリート破片であることから、現状通り再生利用業者へ処分を委託する。・委託先処理業者には定期的に現地調査を実施し、契約通り適正な処理が行われているかを確認する。			
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。